

【平成 18 年 11 月 2 日（木）開催分】

午後 1 時 30 分～4 時 30 分

江南市民体育会館 2 階 大会議室

## 1. グループ別の意見交換から

### 【Aグループ】

江南市のまちを良くしていこう！！  
自分たちでできることは自分たちで  
市民のモラルの向上

1. 市民のモラルの向上
2. 自分の住む町に関心を持ち好きになろう
3. 江南市が好きという市民が増えるまちづくり

### 協働のイメージ

- ・市民と行政の一体感
- ・行政と市民の信頼感を増す
- ・市民の発想を政策にできる
- ・市と行政の歩みより
- ・助け合い、支えあいの精神
- ・江南市を良くしたいという市民と行政の考え方が必要
- ・よくわからない
- ・協働ということばを聞いたことがあるか。 初めて聞いた 4名 たまに聞く 1名

### 協働の心構え

- ・役所と住民が対等の関係
- ・役所と市民の意識が変わること
- ・自分たちでできることは自分たちで、できないことは行政の力が必要
- ・住民側：江南市を少しでも良くしたいという気持ちが大切。江南市に住んでいなくても働いている場合は、仕事を通して良くしたいという気持ちが大切。
- ・自分たちでやれることは自分たちで、地域でやれないことは行政でという考え方が必要
- ・税金を有意義に使うという意識をもつ

### 不安・疑問に思うこと

- ・市担当職員と上司との関係は？
- ・市民への押し付けととられるのではないかが心配
- ・同じ子どもの問題でもいくつかの課にまたがっているので連携してほしい
- ・ボランティア活動を担当が理解していても、上司が理解していない。
- ・課がまたがっている場合、どこに相談してよいかわからない。
- ・異動が少ない部署は、ボランティアを知ってくれている職員がいるので、活動しやすい。

- ・行政が関わっていない活動でも協働か？
- ・前は市の会議に言ってもすでにシナリオができていて、意見を言っても吸い上げてもらえなかった
- ・江南市は防災に対して危機感がない

#### 協働の実例

- ・子どもフェスティバル、環境フェスタ、消費生活プラザで市の人たちと協力して発表していること
- ・県と日赤奉仕団の太いパイプ役を市にやってもらっている。
- ・不燃ごみ回収時、資源ごみ分別での地域住民の力
- ・環境フェスタは達成感あり
- ・地域でのコミュニケーションがとれなくなったから、制度化する。(ファミリーサポートセンターなど)

#### 未来に向けてやりたいこと

- ・NPO、ボランティア団体のネットワークの推進
- ・知恵の出し合いでいいものをつくる
- ・一人ひとりの力を持ち寄ることで江南のまちの力があがるのでは
- ・個人や団体が手を携えることで、活動の内容を豊かにする
- ・ボランティア団体に対する行政支援
- ・市と協働でNPOの育成
- ・市民の交流の場づくり
- ・ボランティア活動の拠点づくり
- ・市民が活躍できる場づくり
- ・市民が江南市の好きなところをすぐに答えられるようなまちづくり
- ・外国人の犯罪をなくしたい
- ・パトロール隊の強化
- ・防災フェスタをやってほしい(防火訓練もいいが)

#### 【Bグループ】

##### 協働のイメージ

- ・いろいろな公のことにに対して意見を言う人は限られている。地域の人が自然に話し合える場の提供を。
- ・例えば、ボランティア活動の中で予算を要求した場合、その活動のことをよく勉強し理解してから話し合いの場に参加して欲しい。
- ・市民が自分の要求を楽しく協働の形態で実現するまちづくりを進めたい。
- ・予算面でももちろんですが、役所対市民等が十分に話し合った中でことを進めていくようにしないと、両方に不満が残って活動がうまくいかなくなる。

- ・住民は依然として行政からサービスを受ける立場であるという意識が強い。これを打破していくことがまず必要だと思います。
- ・私たちが協力し合えることは、子どもの安全を守ったり、子育て支援、地域の安全性を考えたりすること。
- ・財源不足だから協働するというのは、先細りで消極的な方針だと思います。
- ・市民の力をもっと活用する。要約筆記の派遣などを地元のサークルに直接依頼する。要約筆記養成講座もサークルで受けます。
- ・安全、安心なまちづくりは協働から
- ・皆が隣の人を普通に気遣える社会を目指す。
- ・コミュニティは協働の原点
- ・自然と共生
- ・互いの助け合い
- ・市外の人から見て魅力ある江南市。江南市にも誇れるものはあるはず、身近なところから回りを見回そう。

#### 課題

- ・市内巡回バスを走らせたい。
- ・市民のエネルギー、知的財産、ネットワーク、技術などを大いに活用して地方自治を進めること。
- ・井戸端会議の充実が地域を良くする。行政と市民の井戸端会議が協働の第一歩。
- ・言葉遊びに終わらない。定義等も大事だが具体的に考え、行政も市民も意識改革が大事。
- ・江南市の自治基本条例、市民協働を促進する条例をつくりましょう。
- ・市内に難聴者は200人、高齢化が進めばもっと増加する。要約筆記の派遣依頼があればすぐに駆けつけるつもり。PR不足で依頼者が少ない。
- ・町内会単位の住民予算制度を設けて、市民の自治意識を高め、住民へのサービスをきめ細かくする。
- ・大事にしたいことは、意思決定のプロセス。
- ・開発、施設整備については専門家に任せず利用者の意見を聞くこと（特に障害者、その団体）
- ・民家、商店の空き家を利用して地域のたまり場をつくる。気軽に楽しめる憩いの場に。
- ・協働の必要性の意識の向上。
- ・市民、行政両者が主役として協働していく。
- ・継続性、安定性をどう確保するか。
- ・行政が協働相手の市民とどう向き合うか。
- ・弱者の意見を聞く機会が少ない。健常者のための協働であってはならない。
- ・誰のための協働か、担当者（市民グループ）、行政のためではない。
- ・自分のやりたいこと以外の部分での協働が課題。
- ・グループメンバーをもっと増やしたいが、方法がわからない。

## 【Cグループ】

### 協働の問題点

- ・現在の取り組みや動きがよくわからない
- ・行政が市民に職権委譲をスムーズに行えるか心配
- ・課題に共通の認識を持つ必要がある
- ・市民1人1人の認識が必要
- ・協働が何か知ってもらうのにエネルギーがいる

まだ市民には浸透していないので、協働の具体例がわかりやすく説明するために必要なのではという意見でまとまりました。

### 方法論

- ・縦割りよりも行政に横のつながりが必要
- ・ガラス張りに行う
- ・無駄を減らす意識で
- ・行政マンが本気か？
- ・目標を持つ
- ・ルール、役割分担の明確化
- ・啓発が大切

協働のルール、役割分担の明確化

市民活動団体同士の交流が必要

協働の進め方をきちんと決めること（総花的な計画ではいけない）

市民への啓発、PRをもっと工夫すること などが必要という意見でまとまりました。

### 希望

- ・団体の交流の場が欲しい
- ・お互いができることをきちんと分担する
- ・人材の育成、勉強会の開催を望む
- ・行政も協働について勉強してほしい
- ・団塊の世代の生きがいの創出
- ・地縁団体等との意見交換も必要

市民活動センターがほしい。

地域防犯について組織化をしたい。

誰でもやってくれるのではなく、誰でもやれる、できるという意識が浸透してほしい。

継続は力（心配だけど）など、長期にわたり多く団体や市民に協働に参加をしてほしいという意見でまとまりました。

## 【Dグループ】

### 情報の共有、話し合い、協力

- ・団体活動の中で共通の事柄がある場合は、接点を話し合いにより良いものにしていけたらと思います。
  - ・自分たちの良さ、得意なことを出し合って協力すること
  - ・グループごとに横のつながりを持つこと
  - ・福祉施設に耳の不自由な人のための要約筆記者を置いて欲しい。
  - ・団体間のコミュニケーションが不足、情報の不足
  - ・社会福祉協議会と市役所との情報共有
  - ・もっと意見交換の場を持ちたい。
  - ・行政やボランティア同士のつながりがもっと密になるとよい。
  - ・地域のあつまり やろまい会 いこまい会
- 交流へ つなごう**

### 対等の関係、相互理解

- ・行政とボランティア団体が上下関係ではなく対等な立場で関わりあっていくこと
- ・大人、子ども、社会で働く人々、学校の先生、学童の先生、塾の先生、ボランティアグループの人々、地域に住む人と全員がまちづくりについて語り合える（人を育てるまちづくり）を目標としてイメージしています。

### 業務委託の推進

### 職員の意識改革

- ・職員の市民活動、ボランティア活動への参加を促進する。
- ・行政職員と民間人の考え方に差がある。
- ・民間も若い人は自分のことばかり考えている。

### 場所

- ・多くの人が活動しているが、その人たちと連携することが足りない。交流する場所の確保。
- ・異グループとのワークショップの場作り。
- ・地域情報センター会議室の平日開放、17時以降の開放。
- ・安全な子どもの遊び場
- ・福祉ボランティアで名古屋へ行くときに市役所の駐車場を利用させて欲しい。
- ・他市町の玄関はきれいに整備されているが、江南駅は整備されていない。

### 助成金

- ・公募で助成金を市民活動団体に交付する制度（財政的支援の充実）

### 講座

- ・市民活動の入門講座、学習機会の提供

**協働の拠点**

**まず一歩 動こう**

## 2. 全体での意見交換（発言）

<委員> 向上的に、ものごとを考える方が多いせいか協働について、良い意見が出されました。

江南市にお住まいの方や、市外にお住まいの市役所の職員もいらっしゃるので、他の市の様子もわかっていいのではないかと思います。

<委員> これが協働なんだなと感動しています。一人ひとりのお考えを発表していただき、知らないこともいっぱい教えていただきました。

<委員> 協働ということ、どうわかっていただけるか。（市民の中には）意見がぶつかるのを怖がる人もいますので、協働していくためには、相当なエネルギーが必要だと思います。

<委員> みんないい仕事（活動）をしていらっしゃる。それをつなげていくのが協働なんだなと思います。

みんなが集まる場所、言い合える場所が欲しいですね。地域情報センターをその場所にしたらという案も出されました。

こんなことを話しているより、草の一本でもひきましよう、という意見もありました。

<委員> このあと、どうするか。

<会長> どうしようかという提案をしてほしいのですが。

今日、いっぱい意見をいただいたので、整理して（協働について）年度内にルール案をつくり、みなさんに投げ返し、よりよいものにつくりあげたい。

<事務局> 地域情報センターを協働のセンターにしていくことを検討していきたい。職員の（協働の）意識改革をすすめていく研修も考えています。

[会議要旨（会議内容の概要）へ](#)